

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 17 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380866

研究課題名(和文) キャリア発達における将来目標の役割と心理的適応への影響過程の解明

研究課題名(英文) The roles of aspirations on psychological adjustment and career development

研究代表者

櫻井 茂男 (SAKURAI, Shigeo)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号：50183819

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究プロジェクトでは、子どもの将来目標を測定する尺度を開発し、その尺度を用いて以下の3つの研究を行った。それらは、(1)子どもの将来目標の背景要因としての親の影響の検討、(2)子どもの将来目標と学校適応、将来の夢との関連の検討、(3)将来目標の変容を意図した筆記法の効果検証、であった。これらの研究によって、将来目標の中でも、自己成長や他者との親密性を重視する人生価値観である内発的将来目標の適応性が確認され、親の子どもへの教育および学校教育の中で内発的将来目標を育むことが可能であることが示された。

研究成果の概要(英文)：This research developed the Japanese version of aspirations index for children and performed following three sub-projects: the research for 1) investigating the influence of parents' aspirations and behaviors on children's aspirations, 2) examining the relationship between children's aspirations and school adjustments, their future dreams, and 3) validating the effect of writing intervention for aspirations. Through these researches, we found a positive effect of intrinsic aspirations, which highly value the self-growth and affirmation, on career development and school adjustment, and proposed a model how interevent children to enhance their intrinsic aspirations from a perspective of school and parents' education.

研究分野：教育心理学

キーワード：将来目標 キャリア教育 尺度作成 子ども

## 1. 研究開始当初の背景

わが国の若者の雇用問題の深刻化をふまえ、キャリア教育の重要性が日に日に高まっている。例えば、平成 24 年度の労働力調査(総務省統計局、2012)によると、若年無業者は 63 万人で前年度から 2 万人の増加となった。また、中学校、高等学校、大学の卒業 3 年後の離職率も依然として高く、大きな社会問題として認識されている。

こうした問題の背景には、現代の若者の「自分らしい生き方」を追求する姿勢があり、それゆえに、自分のキャリア選択に悩むことも多いことが指摘されている。その際に、大きな指針となるのが、「自分の人生において何を大切にしていきたいか」という個人の価値観である。自分の人生においてお金を重視する人や家族との絆を重視する人など、こうした人を想定すれば、様々な価値観があることは明白である。しかし、そうした価値観のすべてが、実際のキャリア選択に対して有効に働くとは限らない。したがって、キャリア教育を充実させるためには、若者の個人の価値観を把握することが必要であり、どのような価値観が有効であるかを確認することも重要であると考えた。

この人生に対する個人の価値観を将来(人生)目標という。将来目標は、人生において自己成長や社会的貢献を重視する内発的将来目標と、金銭的成功や社会的名声の獲得を重視する外発的将来目標の二つに大別することができる。そして、内発的将来目標を外発的将来目標よりも相対的に重視することが個人の精神的健康や適切なキャリア構築につながるということが理論的仮説として検討されてきた。しかし、これまで将来目標に関する研究及び理論的仮説の検証においては、主に成人が対象とされており、子どもを対象にした場合でも、その仮説が支持されるかどうかについては検証されてこなかった。

近年、教育現場では、上述した実態をふまえ、小学生の段階からキャリア教育を充実させるという教育方針が打ち出されており(中央教育審議会、2011)、こうした背景をふまえ、子どもを対象とした研究が求められていると考えられた。そして、上述した価値観はキャリア選択だけに影響を及ぼすのではなく、学校適応などにもその影響が波及するのではないかと予測した。

そこで、本プロジェクトでは、まず子どもの将来目標を測定する尺度を開発し、その上で、以下の 3 つのテーマにもとづき研究を遂行した。それらは、(1) 将来目標の背景要因(親の将来目標や子どもに対する養育態度、自律性支援など)の検討、(2) キャリア発達における将来目標の役割の明確化(将来目標と学校適応、将来の夢との関連)、(3) 将来目標の変容を意図した筆記法の効果検証、であった。

## 2. 研究の目的

(1) の目的は、親の養育態度や将来目標に着目し、子どもの将来目標の背景要因を探ることであった。

(2) の目的は、将来目標と生活満足度、向社会的行動、学習動機づけ、との関連および子どもの将来の夢との関連を検討することであった。特に、内発的将来目標がこれらの指標と関連が強いことが仮説として設定された。

(3) の目的は、将来目標の変容を意図した筆記介入を行い、その効果を検証することであった。

## 3. 研究の方法

(1) では Web 調査を実施し、親と子どものペアデータによる検討を行なった。

(2) では質問紙調査を子どもに実施した。

(3) ではワークシートを活用した筆記法をまずは大学生に実施し、その効果を検証した。

## 4. 研究成果

まず研究のスタートとして、成人版将来目標尺度をベースに子ども用将来目標尺度を開発した。成人版を開発したカッサー氏のスーパーバイズをうけ信頼性と妥当性を備えた尺度を開発することができた。その上で、この尺度を用い、先述した 3 つのテーマに沿った研究を遂行した。

(1) では、子どもの将来目標の背景要因として、親の養育態度や将来目標との関連が検討された。その結果、まず子どもの将来目標と親の将来目標には中程度以上の正の相関関係があった。すなわち、親が内発的(もしくは外発的)将来目標を重視している場合、その子どもも内発的(もしくは外発的)将来目標を重視していたのである。また、親が子どもに対して重視してほしいと期待する将来目標も子どもの将来目標と中程度の正の相関関係が示された。つまり、親が子どもに対して内発的(もしくは外発的)将来目標を重視する子どもになってほしいと期待しているほど、実際に子どもは内発的(もしくは外発的)将来目標を重視するということである。さらには、親の自律性支援やポジティブな養育態度(関与・見守り、肯定的応答など)が子どもの内発的将来目標と関係があり、親のネガティブな養育態度(過干渉、非一貫性など)が子どもの外発的将来目標と関係があることが確認された。この結果から、子どもの将来目標に対する親による影響が確認された。

(2) では、内発的将来目標が生活満足度や学習動機づけ、向社会的行動とより強い正の関連をもつこと明らかにされたが、一方で、外発的将来目標はこれまでの成人を対象とした研究知見とは異なり、子どもにとってマイナスに働く目標ではないことが示された。この結果については、次いで実施された縦断調査によっても確認された。また、子どもに

将来の夢を記入してもらった調査では、内発的将来目標を高い子どもほど、社会的に影響力のあると考えられている職業を将来の夢にしていることが明らかにされた。一方、外発的将来目標の高い子どもほど、年収の高い職業を将来の夢にしていることもわかった。

(3)では、ワークシートを活用した筆記法による介入が実施された。まず、自分が持っている将来目標を確認させ、それがなぜ重要なのかについてその理由を記述してもらった。この方法によって、事前事後の検定において、内発的将来目標の重要度が高まり、さらにはそれが将来において達成できるという主観的確率までも高めることが明らかにされた。ただし、外発的将来目標を下げることに對しての効果は限定的であり、この点は今後の課題となった。

以上、(1)から(3)の成果をまとめると、内発的将来目標の適応性が確認され、親のポジティブな養育態度や自律性支援、また教育的な介入(その目標を持つ理由に着目した筆記介入)によって内発的将来目標を育むことが可能であることが示された。ただし、子どもにとって、外発的将来目標は不適応をもたらすとは言いきれず、成人研究では報告されてこなかった新しい発見もなされた。また、一連の研究を通して、将来目標を重視する意味を考えさせることによって、内発的将来目標が高まり、それが精神的健康につながるという、介入モデルも考案された。以上の知見から、内発的将来目標を重視することが再確認され、またその方法まで確立されたことから、本プロジェクトはキャリア教育の展開に對して一定の知見を提供したものと考えている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

西村多久磨・鈴木高志・村上達也・中山伸一・櫻井茂男 (2016). キャリア発達における将来目標の役割: 生活満足度、学習動機づけ、向社会的行動との関連から 筑波大学心理学研究、53、81-89. (査読あり、2016年刊行)

〔学会発表〕(計6件)

Nishimura, T., Suzuki, T., & Sakurai, S. (2015). The development of the Japanese version of Aspiration index. The 14<sup>th</sup> European Congress of Psychology. (University of Milano-Bicocca, Milano, Italy)

櫻井茂男・西村多久磨・村上達也・鈴木高志・中山伸一 (2016). 子どもの将来目標に関する研究(1): 尺度の因子構造の検討 日本教育心理学会第58回総会. (サンポートホール高松・かがわ国際会議場、香川県高松市)

鈴木高志・村上達也・西村多久磨・中山伸一・櫻井茂男 (2016). 子どもの将来目標に関する研究(2): 心理的適応との関連 日本教育心理学会第58回総会. (サンポートホール高松・かがわ国際会議場、香川県高松市)

Nishimura, T., Murakami, T., Nakayama, S., Suzuki, T., & Sakurai, S. (2017). Mother's educational involvements facilitate children's intrinsic aspirations, but not extrinsic aspirations. 2017 Society for Personality and Social Psychology Annual Convention. (Henry B. Gonzalez Convention Center, San Antonio, Texas, USA)

Nishimura, T., Murakami, T., Nakayama, S., Sugawara, H., Suzuki, T., & Sakurai, S. (2017). The relationship between children's aspirations and the social status score their future dreams. 2017 Society for Research in Child Development Biennial Meeting. (Austin Convention Center, Austin, Texas, USA)

Murakami, T., Nishimura, T., Nakayama, S., Suzuki, T., & Sakurai, S. (2017). Mother's educational involvement facilitates children's intrinsic aspirations and adjustment in school-work: If mother's expectations regarding extrinsic aspirations are low. 2017 Society for Research in Child Development Biennial Meeting. (Austin Convention Center, Austin, Texas, USA)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等: 該当せず

## **6 . 研究組織**

### (1) 研究代表者

櫻井 茂男 ( Sakurai Shigeo )  
筑波大学・人間系・教授  
研究者番号：50183819

### (2) 研究分担者

鈴木 高志 ( Suzuki Takashi )  
高知工科大学・工学部・准教授  
研究者番号：90725938

村上 達也 ( Murakami Tatsuya )

高知工科大学・工学部・講師  
研究者番号：00743791

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

西村 多久磨 ( Nishimura Takuma )  
東京大学大学院・教育学研究科

中山 伸一 ( Nakayama Shin'ich )

筑波大学大学院・人間総合科学研究科

菅原 宏明 ( Sugawara Hiroaki )

筑波大学大学院・人間総合科学研究科